

【取材のお願い】 三重南紀みかんシーズン到来 「味一号」「みえの一番星」 出荷開始

J A伊勢三重南紀地区では“超”極早生温州ミカン「味一号（品種＝みえ紀南1号）」の出荷が始まります。

露地栽培の温州みかんの中で最も早い9月上中旬に収穫が始まる「味一号」。その中でも外観や糖度10以上、酸度1.1%以下などの厳しい基準を満たしたものは三重ブランド「みえの一番星」として出荷されます。甘みと酸味のバランスが良く、緑色の果皮とオレンジ色に輝く果肉のコントラストが美しい温州ミカンです。

9月下旬までに県内や愛知県を中心とした市場へ約1,100トンの出荷を見込んでいます。

お忙しいところ恐れ入りますが、ぜひ取材をお願いします。



▲味一号を収穫する様子（昨年撮影）



▲味一号を選別する作業員（昨年撮影）

超極早生「味一号」出荷スケジュール

「味一号」初選果・出荷作業

日時：9月8日（火） 9：00～10：00

場所：J A伊勢 統一選果場

「味一号」収穫作業

場所：町内園地 ※ご案内いたします

生産者：J A伊勢子会社

株式会社オレンジアグリ

※写真の提供も可能です。

「味一号」商標登録 正式に登録されました

「味一号」は、生産者の皆様が長年培ってきた栽培技術と品質管理によって築き上げられた大切なブランドです。ブランド価値の保護、消費者からの信頼確保、模倣品や無断使用の防止、産地の販売力向上を目的に登録申請いたしました。「味一号」の名称につきましては、商標権者の許可なく使用することはできません。

「味一号」の名称は、JAへの出荷商品に限定して使用するものとし、ブランド価値の維持・向上に向けて適正な管理を行います。なお、無断使用や不適切な使用が確認された場合は、使用中止を求めるなど必要な対応を行います。

今後も「味一号」ブランドの価値向上と販売拡大に取り組み、生産者所得の向上と産地の発展につなげてまいります。



【味一号（品種：みえ紀南1号）】

みえ紀南1号は三重県が県主力品種の「崎久保早生」を母に「サマーフレッシュ」を交配し育成した品種。露地栽培（ハウスでなく）で、9月中旬と全国トップクラスの早期出荷ができる。

重さは90グラム前後、内容先行型で果皮の色づきよりも先に果実が成熟するので外観は青くとも減酸が早く、甘さと程よい酸味のバランスで食味に優れる。

JA伊勢では「みえ紀南1号」を「味一号」の商標で出荷します。味一号の中でも外観や内部にも問題なく、糖度10以上・酸1.1以下の高品質なものを「みえの一番星」として出荷。JA統一選果場の光センサーで全量をチェックし、階級ごとに分けて出荷しています。

「みえの一番星」というブランド名は2011年に台風（平成23年紀伊半島大水害）で大きな被害を受けた産地をけん引する希望の星になってほしいと願いを込めて、そして本州でトップクラスの早さで出荷されることにちなんで、同年に前三重県知事の鈴木英敬氏（現衆議院議員）によって名づけられました。

温州部会では高品質栽培を目指し、樹の根本やほ場一面に白いシートを張るマルチ栽培を推進しています。高齢の生産者の園地ではマルチ被覆を部会役員や若手生産者が請け負うなどして、被覆面積を拡大しています。糖度を上げ、味を凝縮させるには水分と地温のコントロールが重要であり、天候に合わせて開閉することで水分をコントロールし、マルチシートの反射で樹全体に日光を当てたり、天候に合わせた日々のかん水作業などの生産努力で安定した高品質なみかん作りに取り組んでいます。

今年産の「味一号」は、2・3月の気温が平年よりやや低かったことが影響したのか、発芽が3日程度遅れましたが、4月の気温が高く5日ほど早く満開を迎えました。7月の雨不足による干ばつの影響でやや小玉傾向ではありますが、生産者は暑い中かん水作業を一生懸命に続けてきました。糖と酸のバランスのとれた「みえの一番星」「味一号」を平年と同時期に消費者の皆さまへお届けすることができます。

9月下旬までに県内、愛知県を中心に、大阪などの市場へ約1,100トンの出荷を見込んでいます。

【お問い合わせ先】

伊勢農業協同組合

三重南紀経済センター（担当：宇城）

電話：05979-2-1388 携帯：080-3911-3076

Email: m-ushiro@ise.jamie.or.jp

営農柑橘グループ（営農指導・販売担当）

電話：05979-2-4545